

※試作品は第9回住まいと暮らしの工芸展
に出品した。

11-3 指導部業務概要

主要業務及び日常業務内容は次のとおり
ある。

1. 主要業務

- 1) 木竹製品の開発に関するデザイン研究
- 2) 技術情報の収集及び整備。
- 3) 業界の育成及び組織化指導
- 4) 刊行物等の編集発行と啓蒙
- 5) 展示会等の企画、運営
- 6) 技術指導等の実施と調整
- 7) ⑩事業等の実施

2. 日常業務

- 1) 設計依頼処理
- 2) 研修生の受入れ
- 3) 各種集計業務
- 4) 資料配布

一試験研究一

ホテイチクの高度利用研究

大西 洋

ホテイチクと異種材を利用して、テーブルセットを試作したものである。

従来、ホテイチクは、弾性の最も優れたものとして、釣竿は記すまでもなく本種最大の利用面であり、また材質が強靱なとこ

ろから直材として利用した。なお竹材は完全に防虫処理をほどこしたものを使用した。

●卓子

(1) 天板は24㎜合板を用い表面に細巾編みの網代を張り縁は広巾の割竹を接着し、網代面の塗装として、透明のカシューで処理を行った。

(2) 脚は、ホテイチク直材の両端に穿孔し材を横に井桁に組上げ、その内側の上下に補強木枠を密着させて取付けた。

●椅子

椅子の脚と同じ工法であるが、椅子の脚材は前者より細めの竹を使用し、補強枠に角柱を用い堅牢なものとし、座は薄めの枠にモケットを張り、本体に取付けた。

このほかに同一の工法で、フラワーボックス、吊棚等を試作したのであるが、材料の有効利用を図るため、構造と強度を研究し、木材と合板、金属を併用した製品を研究中であり、各種展示会等に出品して好評を得、一部は業界において生産中である。

1. 建築装備用家具のデザイン開発研究

田原 健次

集合住宅の急速な普及は狭少な室内空間の有効利用の面から機能的で合理性のある建築装備用家具の開発が急がれる。今年度は当県既存メーカーの技術範囲を前提に建築装備用家具の基本形体である壁面取付け式の収納家具を対象にその生産性と製品機能の両面に重点をおきデザイン作業を進めたものである。

即ち、①部材（組立パネル）の共通性を